2019 年 7 月 4 日

横浜市 麻しん流行情報 7 号

横浜市衛生研究所 ／ 横浜市健康福祉局健康安全課

市内では第 25 週（6/17～23）以降、患者報告はありません。

- ◆ **4 月以降、海外渡航歴のない感染経路不明の麻しん感染の報告が続き、その麻しん患者との接触による感染も報告されていましたが、最後の患者報告から 3 週間が経過し、市内における感染は収束傾向にあるものと考えられます。**
- ◆ **首都圏での患者報告や海外での感染は続いており、引き続き注意は必要です。**
- ◆ **麻しんは非常に感染力が強く、その予防には 2 回の予防接種が必要です。麻しん・風しん混合ワクチン（MR ワクチン）を確実に接種しましょう。**
- ◆ **感染が疑われる際は、必ず医療機関に事前に電話連絡の上、マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて、早めに受診しましょう。**

1 麻しん（はしか）とは？

感染経路は空気感染、飛沫感染や接触感染など様々で、感染力はとても強く、免疫がない人が感染するとほぼ 100%発症します。潜伏期間は 10～12 日ほどで、熱やせき、鼻水など、風邪のような症状が出て、数日すると 38℃以上の高熱と、全身の赤い発しんが出現します。肺炎や脳炎などの合併症を併発すると、時に命に関わることもあります。

熱やせきなどの症状が出現する 1 日前（発しん出現の 3～5 日前）から発しん出現後 4～5 日（または解熱後 3 日）くらいまで、周りの人に感染させる力があります。感染拡大防止のため、なるべく外出を控えるなどの行動の注意が必要です。

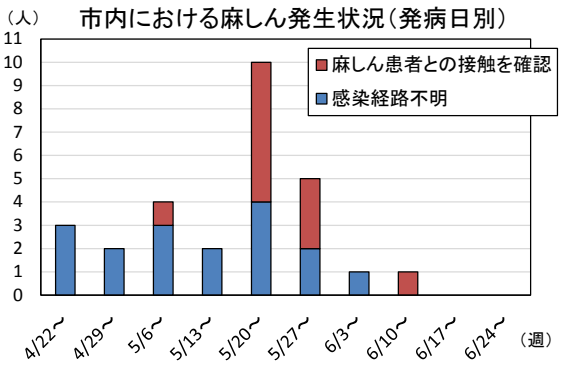
◆ 参考：麻しんについて（国立感染症研究所）　麻しん・風しんについて（横浜市保健所）

2 麻しん患者の発生状況（4 月 22 日以降）（市内感染症発生動向調査：2019 年 7 月 3 日現在）

最後の患者報告から健康観察期間である 3 週間が経過し、市内における感染は収束傾向にあるものと考えられます。

しかし、首都圏を中心に散発的に患者報告があることや、海外渡航者の国内発症の可能性は今後も続くことから、引き続き、予防接種や健康管理は必要です。

麻しんを疑う症状が現れた場合は、必ず医療機関へ事前に電話連絡の上、マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて、早めに受診してください。



3 予防接種について

麻しんは、予防接種法による定期予防接種の対象疾病です。現在実施している定期予防接種では、「麻しん・風しん混合ワクチン」（MR ワクチン）を 2 回接種します。

【標準的な接種期間】 1 期：1 歳以上 2 歳未満　　2 期：5 歳から 7 歳未満で小学校就学前 1 年間

◆ 参考：麻しん風しん予防接種について（横浜市保健所）

【お問い合わせ先】　横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課　TEL 045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課　TEL 045(671)2463

今後、麻しん流行情報は患者報告状況等に応じて不定期で発行します。毎週の報告状況は、横浜市感染症情報センターホームページの「最新の感染症発生状況（横浜市内）」の「週報」の「全数情報」をご覧ください。